

第2回

シリーズ「霊的集団の誤りを正す」第3弾

ともひさ
太田朝久

駒場集団の言説の誤り

本講座では、霊的集団「李勝哲・駒場久美子集団」の言説の誤りを取り上げます。彼らは、16万訪韓セミナーのみ言などを自分かかってに解釈し、自分たちの活動を正当化しようとしています。彼らの「誤った言説」を文鮮明先生のみ言を中心に正しながら、私たちが持つべき正統的な信仰とは何かについて説明します。KMS会員とAPT F会員は動画版シリーズ「霊的集団の誤りを正す」第3弾を、KMSウェブサイトで見聴できます。第1弾、第2弾も併せてご覧ください。(編集部)

一・「メシヤのみ言」以外に、「聖霊のみ言」が必要と主張する誤り

駒場集団の言説には、中山集団の影響が色濃く反映しています。その一つが、「原理」のみ言」以外に「聖霊のみ言」が必要であると主張する点です。駒場集団は、神様は「二性性相の神」であるがゆえに、み言（ロゴス）にも「メシヤのみ言」以外に「聖霊のみ言」があると主張します。

彼らが独自に作成した小冊子には、次のように記されています。

「『ロゴスすなわちみ言は二性性相になっている（原理）と記録されている……み言の成就是、神様の責任分担95%と人間の責任分担5%が合わさって成り立つ……神様の創造の偉業に加わるということは、先にみ言5%を探して立てなければならぬ……それでは人間の責任で探して立てなければならぬみ言が、何であるのか」（駒場資料、六〇ページ）

彼らは、こう述べて『原理講論』の一節を引用し、次のように主張します。

「もし、ロゴスが二性性相になっていないならば、ロゴスで創造された被造物（ヨハネ一・3）も、二性性相になっているはずがない。原理265と、記されている……（しかし）人間自身がみ言の基台を失ってしまったのであるから、人間自身の責任分担において、それを立てなければならぬ原理377

第一は人間が堕落によって失ったみ言です。二番目は聖霊のみ言です……三番目は原理のみ言が精子だと語られましたので、精子の対象にあたる卵子のみ言です」（同、六〇〜六一ページ）

駒場集団は、以上のように述べ、種類の違うみ言を幾つか探し立てなければならぬとし、文鮮明先生が解明された「原理」のみ言以外に、聖霊のみ言、および卵子のみ言が必要であると主張します。これは誤りです。『原理講論』が言わんと

するのは、み言が何種類かあるということではありません。これは、唯一なる神様が二性性相であられるように、神様の語られるみ言も二性性相であることを述べたものです。神様は、二性性相のみ言によって創造を展開されたので、人間をはじめ被造物は二性性相になっているといえるのです。あくまでも、神様のみ言は唯一です。

そして、神様は二性性相のみ言によってまずアダムを創造し、その「あはら骨で「エバを創造した」と聖書に記されているように、み言を解明するのはアダムの使命であり、そのアダムの「み言」で「エバを再創造する」というのが復帰の原則です。

それゆえ、み言の解明は、どこまでも文先生が成される使命であることを明確に知っておかなければなりません。

文先生は、『ファミリー』一九九九年六月号に掲載された第四十回「真の父母の口のみ言」で、次のように語っておられます。

『訓誥会』をすれば、その心情の世界に通じるので、ひとりで涙が流れ……

です。……だれの言葉でも、そのようになるではありません。先生が、死ぬか生きるかという境地で語ったみ言なのです。殺されて、いつ倒れるか分からないのです。ですから、み言をすべて語っておかなければなりません。……霊界の先生の位置を超えて、自分たちが何か付け足すことができ、代身することのできる言葉がどこにあるのですか？ そのようにすれば、すべて滅びるようになってしまいます」（四二〜四三ページ）

文先生は「み言をすべて語っておかなければならない」と語られ、そこに「何か付け足すことができ……言葉がどこにあるのか。そのようにすれば、すべて滅びる」と語っておられます。

また、文先生は「神様の平和王国は私たち祝福家庭の真の祖国」の講演文で、次のように語っておられます。

「レバランド・ムーンが……人類を墮落させた救世主であり、メシヤであり、再臨主で

あり、真の父母であるならば、その教えは、二十年前も、四十年前も、きょう現在も一点一画の加減もない、不変の真理でなければなりません。……私の口を通して伝えられるみ言は、天が下さる真理のみ言であり、人類が永遠に信奉して実践すべき天理です。……一点一画も加減できる余地がありません」（『ファミリー』二〇〇五年八月号、四三ページ）

文先生は、ご自身の解明したみ言は、一点一画の「加減もない不変の真理」であると語っておられます。

そもそも、神様のみ言を不信用して墮落したのは人間始祖アダムとエバでした。ゆえに、み言を解明して発表する使命をもつたのは、人間始祖の立場である真の父母様だけです。真の父母様以外から、み言が出てくることはありません。

文先生は、次のように語っておられます。

「真の父母は、アダムとエバが失敗したすべてのものに責任を負い、それを解決してあげなければなりません。解決しなければ、

真の父母の位置に戻っていく道がありません。父母が時いたので、父母となる者が……万民が要求する種を分配してあげなければなりません。それが原理のみ言です」(『宇宙の根本』三七六ページ)

人間始祖である真の父母様が全てを解決するための種を分配されるのであり、それが「原理」のみ言であるというのです。ゆえに、前述のとおり、真の父母様以外からみ言が出てくることはありません、駒場集団の言説は誤った主張です。

駒場集団は、「聖霊のみ言」ということを強調します。しかし、私たちが知らなければならぬことは、聖霊は「真のアダム」を差し置いて、他に別のみ言を語ることはないという点です。

例えば、二千年前のイエス様の時に、聖霊降臨がありました。そのとき聖霊は、イエス様が語られたみ言以外に、何かを語った事実はありません。

イエス様は次のように語っておられます。

「真理の御霊(聖霊)が来る時には、あなた

たがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく……わたし(イエス)のものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。……御霊はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせる」(ヨハネ一六・13~15)

聖霊とはイエス様の相対に立つ霊的真の母ですが、聖霊はイエス様が解き明かしたみ言を語るのであり、他のみ言を語るものではありません。この一点を見ても、駒場集団の主張は誤りであるのが分かります。また、文先生は、真の母が行かれる道について、次のように語っておられます。

「伝統はただ一つ！ 真のお父様を中心として！ 他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけません。先生が教えた御言と先生の原理の御言以外には、どんな話にも従ってはならないのです。……お母様が行く道は、お父様が今まで立てた御言と説教集を中心として、行かなければならないのです。他の言葉を述べるのを許しません。……どのような御言も、第二の御言を許しません」

セントの極端にアンバランスな関係であれば、相対基準も造成されず、円満な授受作用がなされずに、いびつな関係になってしまいうことでしょう。これは、駒場集団の詭弁にすぎません。

三、「対象の責任分担」は、 主体が言えないことを悟って 行うことだと主張する誤り

また、駒場集団は次のように主張します。

「対象は主体が言えないこと、直接干渉できないことを探して、積極的に行うのが責任分担と言えるでしょう」(駒場資料、三〇ページ)

主体が言いたくても、言えないことを探し、積極的に行うことが対象の責任分担だという主張は、サタンとの闘いにおいて通じない考えです。

メシヤの相対圏に立つ者は、絶えず主体(メシヤ)の意向に沿って動じ静ずることが重要です。文先生は、エバの信仰姿勢を次

『祝福』一九九五年夏季号、六八ページ)

二、「95対5の法則」を主張し、全ての 主体と対象をそれに当てはめる誤り

駒場集団は、「95対5の法則」があると主張し、主体と対象を無理やりそれに当てはめようとします。これも誤った主張です。彼らは次のように述べます。

「神様と人間の責任が、それぞれ95対5で分担になっているということは……全ての二性性相の相対的關係にも等しく適用されます」(駒場資料、一三三ページ)

『原理講論』が述べる95パーセントと5パーセントの概念は、あくまでも「み旨成就に対する予定」が、神様の責任分担95パーセントに対し、人間の努力は小さな5パーセントにすぎないという例えの数字です。

駒場集団は、それを全ての分野に当てはめようとします。例えば、全ての主体・全対象、性相・形状、陽性・陰性、男性・女性、メシヤ・聖霊、愛・美、メシヤの御

のように語っておられます。

「本来、神様がアダムを創造したのちに、アダムを中心としてエバを造ったので、再創造においても、アダムを送り、彼を通してエバを造るのです。……それを成そうとすれば、お母様自身がサタンと直接的な争いをしては絶対にいけません。先生に絶対従順しなければならず……常に先生のあとから影のようについてこなければならぬのです。自分勝手に行ったり来たりすれば、サタンの侵犯を受けるのです」(『神様の祖国解産完成』七八~七九ページ)

文先生は、エバの信仰として絶対従順を強調され、先生のとを影のようについてきなさい。かつてに行ったり来たりすれば、サタンの侵犯を受けると警告しておられます。

文先生のみ言と照らし合わせると、駒場集団の言説は誤っていることがより明確になります。私たちは、このような誤った言説に惑わされないように気をつけなければなりません。



図1

言・聖霊の御言、メシヤ・墮落人間、聖霊・墮落人間、アダム国家・エバ国家というように、それに当てはめて説明します。これも誤りです。確かに、墮落人間を救う授理においては、親なる神様が創造主としての責任を取られ、限らない恩寵をもつて人間に対しておられるので、95パーセントと5パーセントというのは正しい理解です。しかし、性相・形状、陽性・陰性、男性・女性、愛・美という相対関係は、95パーセント対5パーセントの関係ではありません。相対関係は、互いのために生き合うフィフティ・フィフティの関係です。【図一】もし、相対関係が95パーセント対5パー